（平成23年６月試験研究業務月報）
試験研究課題：中山間地等における飼料米の産地成立要件の解明（地域資源循環型耕畜連携を支援するための飼料米及び鶏卵生産技術の開発）

研　究

採卵鶏への「飼料米」給与試験を開始

－有機酸を添加した未乾燥籾米の消化性などを調査－

農林水産技術センターの各研究部門は、飼料米の栽培方法や家畜飼料としての調製・貯蔵・給与方法の開発、また、飼料米生産が中山間地域の振興に及ぼす影響など飼料米に関する総合的な研究を行っています。

畜産センターでは、現在、保存性を高めるために有機酸を添加して９か月間常温保存した飼料米の未乾燥籾を採卵鶏へ給与し、消化性と有機酸の影響を調査しています。今後、試験成績から、飼料米の最適な配合条件を解明します。

有機酸を添加した飼料米の未乾燥籾　　**市販飼料に混合し粉砕**

給与試験(エサの摂取量と糞の量を１羽ごとに測定)

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年６月試験研究業務月報）

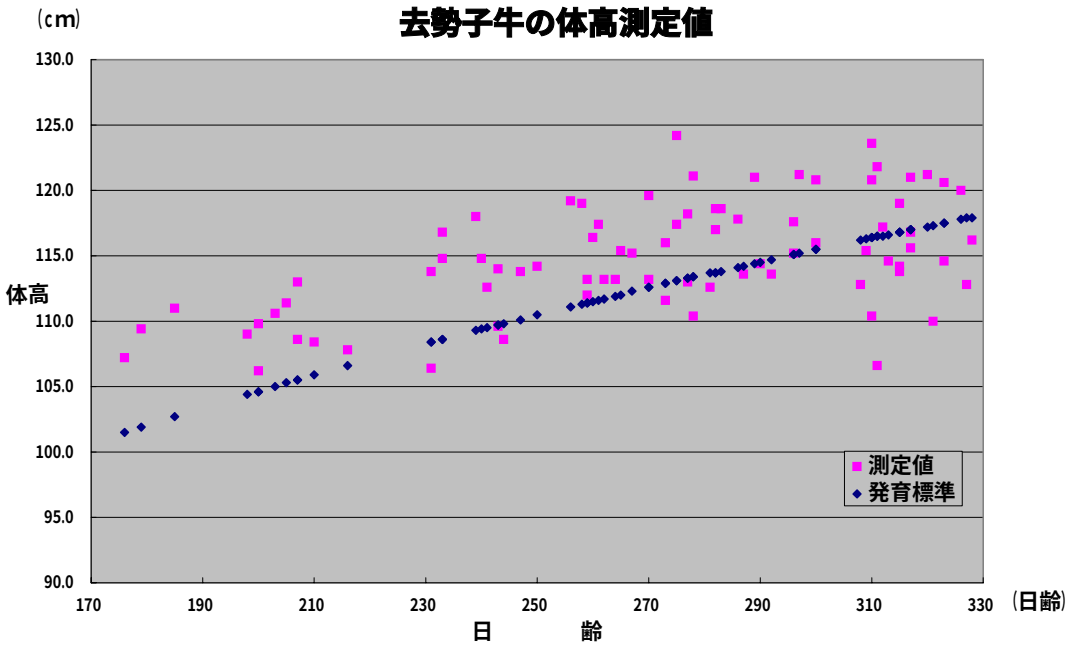
情　報

京都産和牛マニュアル認定子牛制度化に向けての取組

－子牛せり市で体型測定の予備調査を実施－

京都府の畜産関係団体では、和牛繁殖農家が草をしっかり食い込ませ、購買者に喜ばれる子牛をせり市に出荷してもらうため、「子牛の飼養管理マニュアル」を作成・普及し、出荷された子牛を「京都産和牛マニュアル認定子牛」として認定する取り組みがすすめられています。

当センターでは、認定基準作成のための予備調査として、６月の子牛せり市に上場された子牛143頭の体高、胸囲などを測定し、発育状況の分析を行いました。



去勢子牛(81頭)の体高測定値の平均は発育標準より高い傾向

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年６月試験研究業務月報）

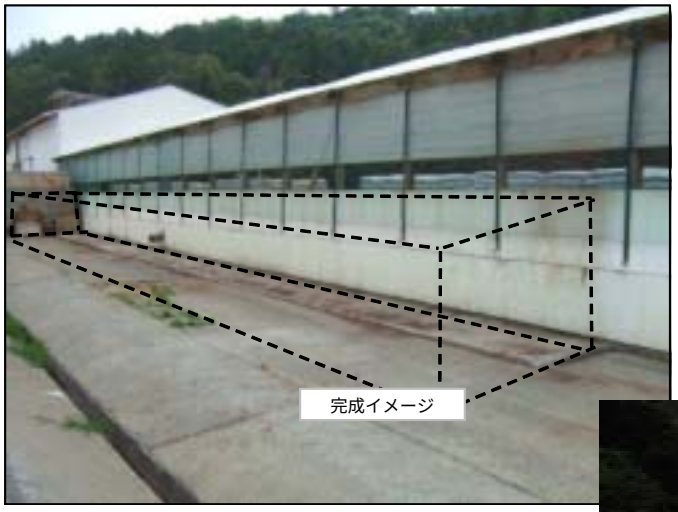
指　導

畜産センター方式の脱臭装置の普及がすすむ

－府内６例目の設置計画が進行中－

畜産センターが開発した脱臭装置は、堆肥舎から発生するアンモニアをほぼ100％除去する脱臭効果が長期間持続し、設置費用とランニングコストが安価で、運転・管理方法が簡単であるという優れた特徴を持ち、府内だけでなく府外にも普及しています。

この度、舞鶴市の採卵養鶏場でこの脱臭装置の設置が決定し、当センターでは、本年秋頃の完成を目指し、規模決定や設計図作成などを行っています。



脱臭装置の設置予定地(養鶏場堆肥置場横)

当センターが開発した脱臭装置
（小規模実証施設）

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年６月試験研究業務月報）

情　報

今一度、自給飼料を見直そう

－和牛改良組合総会で勉強会－

６月１日、京都丹の国和牛改良組合の総会が開催され、総会後の研修会では、当センターから『「牧草」や「飼料イネ」などの栽培・利用上のポイント』を解説しました。このテーマは、組合員から労力不足や獣害などにより作付面積が少なくなっている「牧草」と水田をそのまま利用できる「飼料イネ」などの自給飼料を見直すきっかけにしたいと要望されたもので、参加者は経験を踏まえた活発な質疑応答を行い、牧草など自給飼料の栽培技術を再確認しました。

技術の確認のため、この時期に播く試作用種子も提供

畜産センター

（平成23年６月試験研究業務月報）

情　報

ヨーネ病防疫対策

当センターが飼養している乳用牛１頭が、家畜保健衛生所の定期検査で６月10日に疑似患畜となり、ただちに当該牛の隔離と牛舎消毒を行いました。また、24日の確定検査で陽性となったため、当該牛を殺処分のため家畜保健衛生所へただちに移動した後、全ての牛舎と放牧場の全面消毒を30日までに終えました。

今後、１年間は牛舎エリアへの立入りを制限し、ヨーネ病を「場内にまん延させない」、「場外に持ち出さない」ための対策を徹底した上で、農家に出向く農家採胚や技術指導業務などは現地の要望に応えて実施していきます。

雄牛舎（消毒後）

雌牛舎（洗浄後）

育成牛舎（生石灰塗布後）

放牧場（石灰散布）

畜 産 セ ン タ ー

（平成23年６月試験研究業務月報）

情　報

シバ型草地造成試験開始

碇高原牧場では、和牛放牧を推進し、家畜管理の省力化と不耕作地の有効活用や農村景観の保全を図るため、シバ型草地の造成方法を検討しています。

そこで、当場では、現場での普及性が高い造成方法を明らかにするため、シバの品種は、当場内での越冬が確認できたセンチピードグラス（ティフブレア）とバミューダグラス（リビエラ）を用い、種を播く方法は、通常の散播・条播(50cm間隔)と吹き付け資材による簡易方法で比較検討することとしています。

条播するために放牧場をすじ状に耕しています

積雪に耐え越冬したシバ

畜産センター（碇高原牧場）

（平成23年６月試験研究業務月報）

情　報

レンタヤギが大活躍

－山羊を利用した耕作放棄地の雑草管理－

碇高原牧場では、耕作放棄地の雑草対策や獣害防止を期待する地域の要望に応えるため、和牛（レンタカウ）と山羊（レンタヤギ）を貸し出しています。

山羊は、牛より扱いやすく､雑草を根本まできれいに食べ､斜面や狭い土地でも対応できるので人気があります。今年は、既に京丹後市の３地域(３組６頭)で雑草管理に活躍しており、今後も１組の貸し出しが決まっています。

２頭１組で杭とロープで繋留しています

畜産センター（碇高原牧場）

情　報

宮崎県から改良用の雌子牛を導入

６月27日、府内の改良基礎牛として、宮崎県から雌子牛９頭を導入しました。

宮崎県では昨年、口蹄疫が発生し、畜産をはじめ様々な産業が大きな影響を受けましたが、和牛の主産地とあって、購買者は全国各地から訪れていました。

導入した子牛は、秋頃から受精卵を採取して府内に供給するなど、子牛を生産する改良基礎雌牛として活用し、優秀な「京都生まれ京都育ち」和牛の増産の一翼を担います。

牛舎から離れた放牧場にある検疫牛舎でくつろぐ導入牛たち

畜産センター（碇高原牧場）